

IAEA(国際原子力機関)の ISSC-EBP WA5(津波)のキックオフ会議が開催されました (2011/7/18-21)

IAEA (International Atomic Energy Agency, 国際原子力機関)にて、新規「耐震安全評価の高度化」として10テーマのワーキングエリアが検討され、その中でWA(Working Area)5が tsunami hazards として位置づけられました。今後3年間の予定で、東日本震災の実態と教訓、新知見の共有化、データベース、津波ハザード評価、Safety Report、Tipeez 展開 (JNES) などのプロジェクトが実施される予定です。先日、2011年7月18日から21日、IAEAのウィーン本部でキックオフ会議が開催され、当センターの今村教授が議長をつとめました。

2004インド洋津波の後に、Safety Guide(DS417)中の津波ハザードアセスメント手法がまとめられましたが、加盟国からこれを詳細に解説する参考書のニーズを受け、国際耐震安全センター (ISSC) は Safety Report on Tsunami Hazard Assessment の作成を決定したという背景があります。次回のWA5のワークショップは今年11月頃仙台で実施される予定です。



WA5の会議の様子 (IAEA ウィーン本部)



WA5のメンバーの集合写真 (IAEA ウィーン本部)